



学校だより

子供の「やる気」を育てます

11月号 令和7年10月31日
西東京市立保谷第一小学校
校長 原 之 雄
〒202-0004 西東京市下保谷1-4-4
TEL042-422-4513 FAX042-424-7117
<http://www.nishitokyoed.jp/~houya/>
email ehouya1@nishitokyoed.jp

保谷第一小
ホームページ
QRコード



「ふるさと探究学習」と「認知行動療法プログラム」

研究主任

今年度の本校の研究は、昨年度に引き続き、研究主題を「主体的に学び、問題解決に挑む児童の育成」とし、「～ふるさと探究学習を通して～」という副題を設けています。昨年度の研究をより深化させていくために、

児童の主体性を評価する具体的な観点の設定

「ファシリテーター」としての教師の在り方

この2点を視点にもち、授業展開・教材教具・学習活動の検討をしています。先日は、2年生が生活科「えがおのひみつたんけんたい」で、町探検で訪れるお店・施設の工夫や仕事内容について「どんなインタビュー・質問ができるか」を研究授業で話し合いました。付箋に書き留めた自分で考えた質問を、1組担任の声掛けやヒントを基に、グループで伝え合って分類していました。地域のお店や施設について「工夫についてこんなことが聞きたい!」「こんなえがおのひみつが気になる!」といった2年生児童の意欲と主体性が随所に見られた授業でした。地域の方々やお店、施設が学習の場となり、愛着が生まれることで、今後もさらに児童の意欲や主体性が高まっていくことを確信しています。

さて、本校では上記校内研究と並行して、今年度から2年間、西東京市立学校教育研究奨励事業の指定を受け、「心の健康づくり」をテーマに研究に取り組むこととなりました。児童の不安解消を目的に、千葉大学子どものこころの発達教育センターによって開発されたプログラム「勇者の旅（全10時間）」を、6年生を対象に実施します。

○「勇者の旅」プログラム

- 【目 的】 子どもたちが、認知行動療法（※）の理論に沿って不安の問題に自ら対処する方法を学ぶことで、適切な不安対処スキルを身に付ける。
- 【対 象】 小学校高学年～中学校の児童生徒（本校は6年生児童が対象になります）
- 【内 容】 45分×10回のプログラムを、ワークブックに沿って、週1回～月1回の頻度で実施。

○「勇者の旅」で学ぶこと

- ・不安な気持ちと上手に付き合っていくためのコツを学ぶ。
- ・不安な気持ちを小さくする方法や自分で不安な気持ちを小さくする方法を学ぶ。
- ・不安で困っている友達のことを理解したり、支え合ったりすることを学ぶ。

※「認知行動療法」 ＝ 「感情」の問題を引き起こしている「認知（考え）」と「行動」の悪循環を見直し、好循環にもっていくようにバランスをとる精神療法。

このプログラムは、実際に医療現場で行われている治療の方法を「予防」という観点で活用しようとする試みです。6年生の実践を通して、どのような教育的効果が見られるか、1年次2年次の研究発表でご紹介させていただきます。